

国際社会学部

菊池 陽子

Kikuchi Yoko

地域社会研究コース／東南アジア（ラオス）

歴史学・地域研究



ラオスの国花：プルメリア
(ラオス語では、チャムパーです)

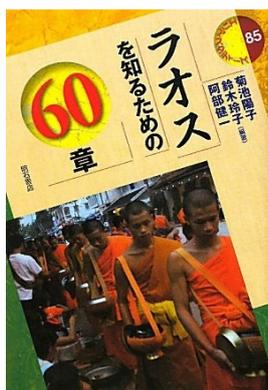
ラオス近現代史研究とは

専門は東南アジアの内陸国、現在のラオス人民民主共和国の近現代史です。なかでも、ラオスの1940年代から50年代にかけてのラオス初のナショナリズム運動といわれているラオ・イサラ（自由ラオス）運動に関心を持って研究対象としています。ラオスは他の東南アジア地域に比べ研究蓄積が浅く、史資料の状況も十分とは言えませんが、それだけに、未開拓の研究分野が広がっています。研究上の刺激にあふれた地域といえます。また、内陸国であるラオスは古くから周辺地域や周辺の人々との関係性のなかでラオというアイデンティティーやラオスという国家を形成してきました。ラオスを研究することは自ずと東南アジアや東アジア、さらには国際社会といったより大きな地域や枠組みとの関係を考えることにつながっていきます。

研究紹介

ラオ・イサラ運動におけるラオスのナショナリズムの形成に関心を持って研究してきましたが、近年はナショナリズム形成に至る準備の段階とでもいうべき、ナショナリズムが実際の政治的運動や民族運動に至る前の時代に関心を持っています。ラオスでは、それが、第二次世界大戦期に日本がラオスを「占領」した時期と重なっています。日本軍によるラオス占領、統治について調査を進めるとともに、ラオスでどのようなことが進行していたのかを明らかにしたいと思っています。また、ラオスにおけるナショナルヒストリーの叙述、いかに国の歴史が語られているのかにも関心があり、歴史教科書、記念日、記念碑などの研究にも取り組んでいます。

ラオスを知るための本



ラオス史を知るための本



担当授業

- ラオス研究入門
- ラオス近現代史
- 東南アジア近現代史
- 歴史資料体論(リレー講義)
- 東京外国語大学史(リレー講義)
- 東南アジア研究入門(リレー講義)

関連する分野

- 政治史
- 軍事史
- 植民地研究

出版物

ラオス近現代史

- 『ラオス史』(翻訳)
- 『ラオスを知るための60章』(共著)

東南アジア史

- 『東南アジアを知るための50章』(共著)

国際社会学部

東南アジア地域研究ゼミ



メコン川



ラオスの代表的な料理：タムマックフーン
(青パイアのサラダ)

どのようなゼミか

本ゼミでは、歴史的な視点から東南アジアを理解することを目標としています。歴史研究を志す学生はもちろんのこと、東南アジアの現実の社会や文化について考える上でも、歴史的な視点は欠かせないからです。歴史的な視点を大切にして、各受講生の関心のあるテーマに取り組むことができます。東南アジアや東南アジアに関連する地域であれば、研究分野や研究対象の時代は問いません。

地域研究とはどのような学問でしょうか。〇〇学と呼ばれる学問分野はそれぞれ対象を研究する上での理論や方法があります。それに対して、地域研究はある地域を対象としますが、その対象をどのように研究するかについて確立した理論や方法があるわけではありません。様々な学問をフルに活用して、地域の個性に迫っていくのが地域研究といえるでしょう。本ゼミの授業では、上述のように歴史学という学問分野から地域を考えることが中心になりますが、その他の学問分野から地域に迫ろうとしている学生もかなりいます。そこに地域研究ゼミの面白さがあります。ああでもない、こうでもない地域についての議論が続いていきます。卒論執筆においては、様々な関心を持った学生が異なった学問分野で対象地域に迫っていくので、卒論執筆の過程で交わされる議論はバラエティーに富んでいます。どのような理論や方法を使えば自らの研究対象地域の個性に迫れるのか、個性を引き出すためには何が必要なのか、



問題だけではなく問題解決の方法も自ら考える、そのような姿勢をゼミでの議論のなかで養ってほしいと思います。

←ラオス南部チャムパーサククのワット・ブー遺跡

卒論

- 『雑誌『ワッタナタム』から見るラオス国民文化の中の少数民族文化』
- 『ミャンマーにおける開発と人権問題に向けた考察－ティラワ特別経済特区の報道を事例に－』
- 『第三次中曽根、竹下政権期の日本の対ベトナム外交』
- 『クメール民話から前近代カンボジアの法観念を探る』

おススメの本

- ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体－ナショナリズムの起源と流行』
- →ナショナリズムを考えるにあたっての必読書
- 藤原貞朗『オリエンタリストの憂鬱－植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』
- →学問における植民地主義を考えさせられる書
- 寺地功次『アメリカの挫折－「ベトナム戦争」前史としてのラオス紛争』
→ラオス内戦という理解、認識に再考を迫る書

ゼミ生からのメッセージ

こんにちは！菊池ゼミです！菊池ゼミでは、歴史を中心に東南アジア地域を探求することができます！先生はラオス史を専門とされており、ゼミでは論文や資料の輪読を通して東南アジア地域の歴史や文化を学びながら、先生がコメントされるラオスの事例や各専攻の学生のコメントと比較しつつ、東南アジア地域の歴史文化を比較考察し深く知ることができます！2022年度は、春に東南アジア地域の歴史文化を取り上げた文献を輪読して学びを深め、秋には『ナガラワッタ』という1930年代にカンボジアで発行された新聞の日本語訳を題材に、歴史的背景も加味しつつ、当時の報道のされ方や主張、生活のあり方を読み解きました。ゼミは東南アジア地域全域に広く触れていきますので、東南アジア地域外の専攻の方を含め、東南アジア地域に興味のある幅広い学生が集まっています！学生の研究テーマも様々で、楽しいゼミですので、東南アジア地域研究に興味のある方は是非！